

第

1

章

東浦町における課題の整理

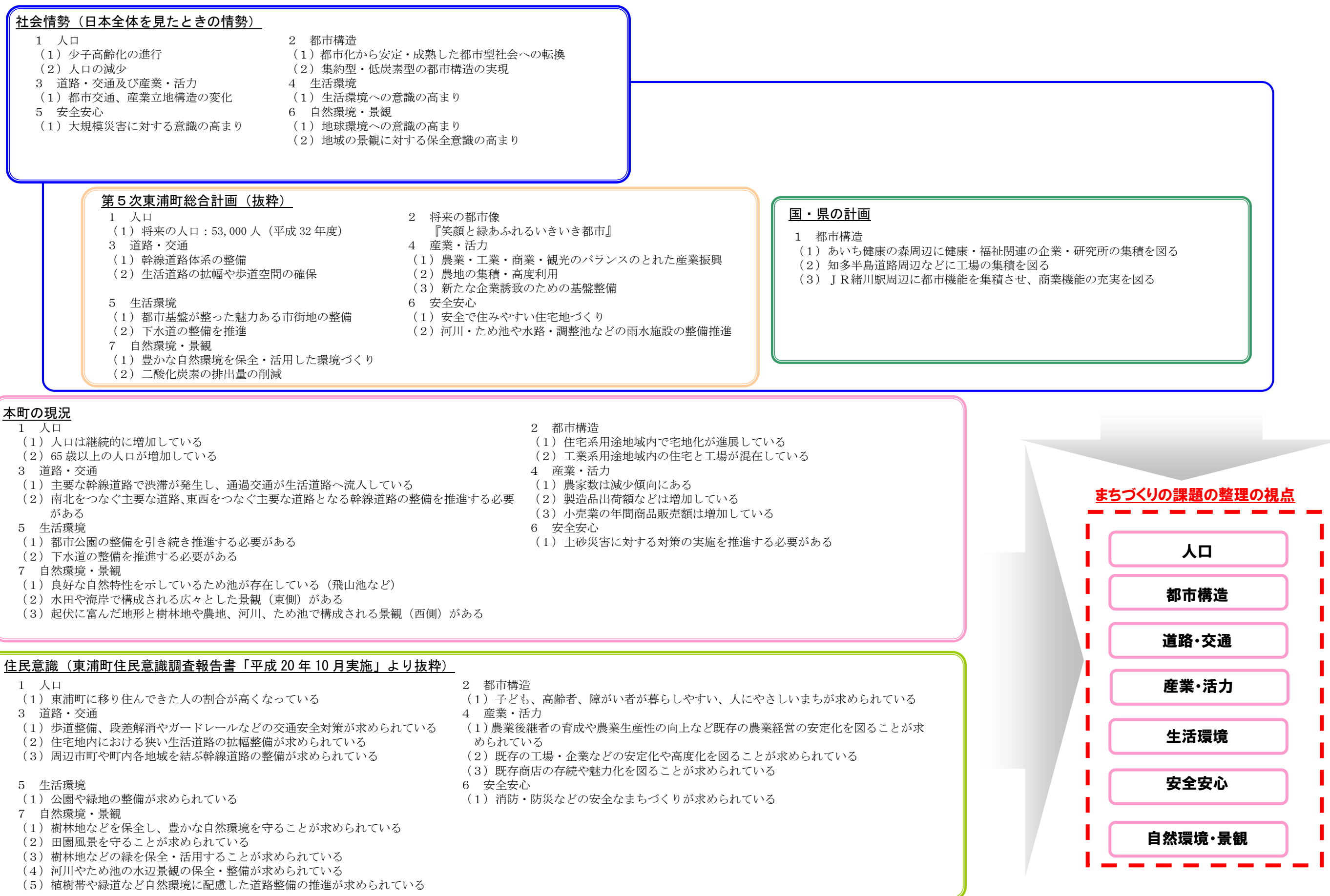
第1章 東浦町における課題の整理

1-1 まちづくりの課題

上位・関連計画、現況の整理、地域別懇談会における意見及び第5次東浦町総合計画の策定のための住民意識調査の結果を横断的に整理し、まちづくりの課題を抽出する。

課題の抽出にあたっては、社会情勢の変化、本町の現況、上位・関連計画をもとに、まちづくりの視点として、「人口」、「都市構造」、「道路・交通」、「産業・活力」、「生活環境」、「安全安心」、「自然環境・景観」を設定し、抽出を行う。

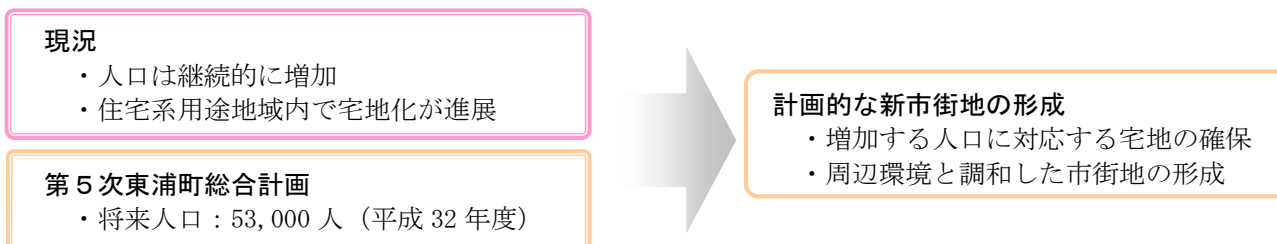
図 まちづくりの課題の整理の視点の設定



1-2 課題の整理

①人口～計画的な新市街地の形成～

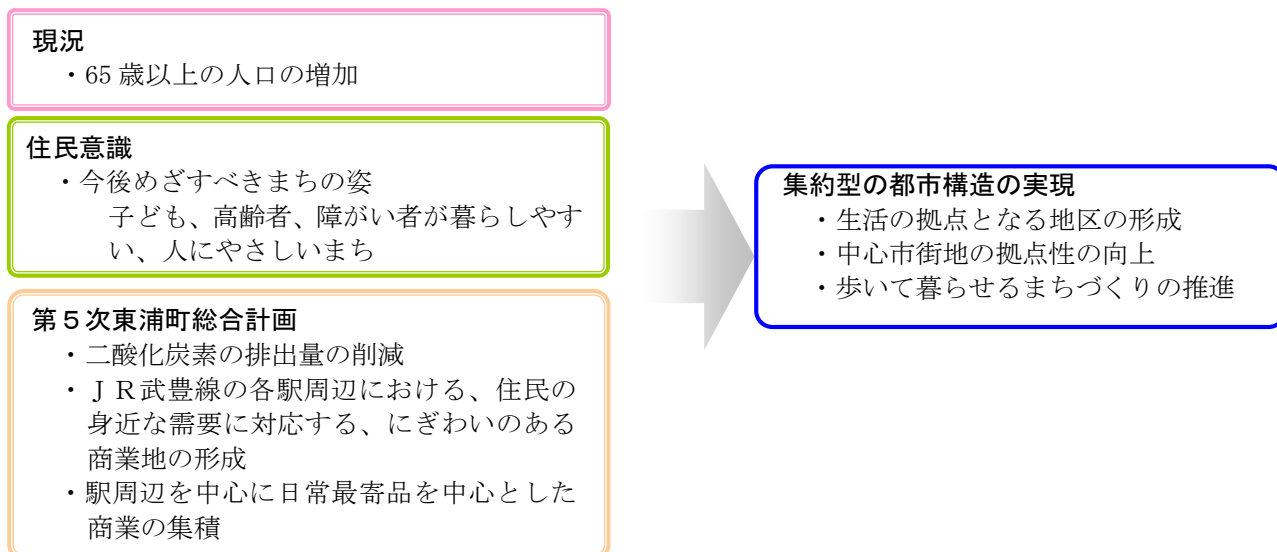
現在人口は増加傾向にあるが、社会的に人口減少が進む中において、人口の増加傾向は、今後は徐々に縮小すると予想される。しかし、名古屋市中心部まで30分圏内という便利な交通条件に加え、将来展望として、平成17年の中部国際空港の開港に続く第2滑走路の整備やあいち健康の森周辺整備など、本町に対して大きな影響を与えると考えられる大規模事業が計画されていることから、これらによる人口増加の需要に応えられるような住宅地の整備を図る必要がある。



②都市構造～集約型の都市構造の実現～

65歳以上の人口の割合は年々増加しており、自動車による移動が困難な交通弱者の増加が想定される。また、住民意識調査においては、子ども、高齢者、障がい者が暮らしやすい、人にやさしいまちが望まれている。

これらのことより、歩いて移動できる範囲に生活利便施設を配置した集約型の都市構造を実現していくことが重要であることから、JR緒川駅を中心とした中心市街地の拠点性を向上させるとともに、JR武豊線の各駅周辺への日常最寄品を中心とした商業集積を図ることで、地域の生活の拠点を形成する必要がある。



③道路・交通～使いやすく便利な交通体系の整備～

道路網は、国道 366 号や県道の東浦名古屋線などの国・県道のほか、西部を通る知多半島道路（東浦知多 I C）から構成されている。

また、都市計画道路としては、市街地の外郭を南北に通る（都）衣浦西部線と東西の市街地を連絡する（都）知多刈谷線を骨格として、20 路線が計画決定されているが、整備率は 50%前後の状態にある。

一方、公共交通機関は、東部に J R 武豊線、西部に名鉄河和線が通っているが、東西を連絡する鉄道はなく、J R 武豊線については単線のため輸送力に限界がある。バスは、民間運行の廃止に伴い町運行バスにより町内各所並びに大府市内の一部及び刈谷市内の一部に運行している。

このような交通体系にある本町は、幹線道路のネットワークが十分に確保されておらず、特に（都）知多刈谷線の整備の遅れから、東西の連携が弱く、東浦知多 I C 周辺の拠点性が十分活用されていない状況である。

今後は、幹線道路や交通結節点の整備及び生活道路の安全性向上、公共交通機関の輸送力及び利用のしやすさの向上、町運行バスの利用促進により、東西方向をはじめとしたネットワークの強化を図り、子ども、高齢者や障がい者などすべての住民の生活利便性の向上や産業の効率化を促進するとともに、生活道路への通過交通の流入を減らし、円滑かつ安全な交通体系を構築する必要がある。

現況

- ・ 幹線道路での渋滞の発生
- ・ 南北・東西をつなぐ主要な幹線道路の整備
- ・ 65 歳以上の人口の増加

住民意識

- ・ 重点改善項目及び特に重要な施策
幹線道路の整備
- ・ 今後めざすべきまちの姿
子ども、高齢者、障がい者が暮らしやすい、人にやさしいまち

第 5 次東浦町総合計画

- ・ 地域の活力を支える基盤づくり
- ・ 幹線道路体系の整備

使いやすく便利な交通体系の整備

- ・ 地域間の連携の向上
- ・ 周辺市町や空港、あいち健康の森などの拠点との連携
- ・ 公共交通の利用の促進
- ・ バリアフリー化の推進

④産業・活力

～営農環境の保全、産業拠点の活用による地場産業の振興と新産業の育成、
商業機能の集積と強化、観光施設及びぶどう園を活用した観光の振興～

農家数は減少傾向にあるものの、農業は主要な産業の1つであり、また、ほ場整備された優良な農地が多く広がっている。そのため、これらの農地の保全と生産性向上に向けた営農環境の維持などにより、農業の振興を図ることが必要である。さらには、ぶどう園などの果樹園の維持・保全に努め、農業による観光振興を図ることも必要である。

また、産業基盤が整備された工業団地が存在しており、工業の拠点として経済を支えている。加えて、現在、県営東浦住宅団地の西方一帯に新たな工業地が確保される一方、あいち健康の森周辺においては、健康長寿関連産業の集積を図るとされている。以上のことから、これらの工業拠点を活用し、地場産業の振興や新産業の育成を図る必要がある。

小売業の年間商品販売額は増加傾向にあるが、JR緒川駅周辺の商業集積は十分ではない状況となっている。このため、今後もJR緒川駅周辺への商業施設の誘致を図るとともに、回遊性が高く利便性の高い、中心市街地の形成を図る必要がある。

現況

- ・農家数の減少傾向、果樹園の減少
- ・製造品出荷額などの増加
- ・小売業の年間商品販売額の増加
- ・観光施設利用者の減少

住民意識

- ・推移注目項目
商工業などまちの活性化
- ・活力あるまちにするための施策
既存の工場・企業などの安定化や高度化
既存商店の存続や魅力の向上

第5次東浦町総合計画

- ・優良農地の保全
- ・東浦知多IC周辺などにおける工業系土地利用の誘導
- ・あいち健康の森周辺への健康長寿関連産業及び関連都市機能の集積
- ・JR武豊線の各駅周辺における、住民の身近な需要に対応する、にぎわいのある商業地の形成

営農環境の保全

- ・優良農地の保全
 - ・生産性向上に向けた営農環境の維持
- 産業拠点の活用による地場産業の振興と新産業の育成**

- ・新規工場や物流拠点の誘致
- ・既存工業施設との連携による産業の発展
- ・周辺市町や拠点との連携
- ・新産業誘致のための産業基盤の整備

商業機能の集積と強化

- ・JR緒川駅を中心とした求心力のある中心市街地の形成
- ・地域の核となる商業機能の適正な配置と形成（JR武豊線の各駅周辺）

観光施設及びぶどう園を活用した観光の振興

- ・果樹園の維持・保全
- ・観光施設の集客力の向上

⑤生活環境～既成市街地の生活環境の改善と宅地開発地区などの生活環境の保全～

丘陵地及び幹線道路に沿って発達してきた既成市街地は、狭あいな道路が多いなど、生活環境を支える都市の基盤が十分に確保されていない地域が残っている。

道路のネットワークが十分に確保されておらず、国道 366 号、県道の名古屋碧南線・東浦名古屋線は、都市内を連絡する交通と周辺都市とを連絡する交通などにより混雑度が高くなっている。また、一部車両が生活道路へ流入し、歩行者の交通安全上の問題も生じている。

歩道については段差の解消などの住民からの要望も多く提出されており、高齢社会の進展に向けて、解消を図る必要がある。

このため、既成市街地においては、狭あい道路の拡幅整備や歩道の設置、バリアフリー化を進め、生活環境の改善を図る必要がある。

また、宅地開発などによって形成された住宅地などにおいては、都市基盤が整った良好な生活環境が形成されている。

このため、生活道路や公園などの確保を進めるとともに、地域のまちづくりのルールを定める地区計画制度などの活用により、生活環境を将来にわたって維持・向上させていく必要がある。

現況

- ・ 65 歳以上の人口の増加
- ・ 幹線道路の渋滞による通過交通の生活道路への流入
- ・ 下水道整備の推進
- ・ 公園などの整備の推進

住民意識

- ・ 重点改善項目
生活道路の整備
- ・ 推移注目項目
住宅地の整備
- ・ 特に重要な施策
生活道路の整備
交通安全・防犯対策
- ・ 環境・景観づくり
公園や緑地の整備

第 5 次東浦町総合計画

- ・ 安全で住みやすい住宅地づくり
- ・ 都市基盤が整った魅力ある市街地の整備
- ・ 生活道路の拡幅や歩道空間の確保

既成市街地の生活環境の改善と宅地開発地区などの生活環境の保全

- ・ 既成市街地
生活環境の改善
歩行者や生活者の交通安全性の向上
バリアフリー化の推進
- ・ 宅地開発による住宅地など
生活環境の維持
周辺環境との調和
- ・ 市街地内の公園・緑地の整備・拡充

⑥安全安心～安全で安心な生活環境の形成～

既成市街地においては、狭あいな道路が多く存在しており、災害時における住民避難や緊急車両の通行に問題がある状況となっている。

また、河川・ため池が多く存在することから、大雨による洪水などの水害に備える必要がある。

このため、既成市街地においては、避難場所・避難路の確保を図る。また、本町全体としては、河川・ため池や水路・調整池などの雨水施設の整備・更新を図り、防災施設の適正な管理と更新による、安全で安心な生活環境の形成を図る必要がある。

現況

- ・下水道整備の推進
- ・公園などの整備の推進
- ・土砂災害に対する対策の実施

住民意識

- ・重点維持項目
消防・防災などの安全なまちづくり

第5次東浦町総合計画

- ・安全で住みやすい住宅地づくり
- ・河川・ため池や水路・調整池などの雨水施設の整備

安全で安心な生活環境の形成

- ・既成市街地の防災性の向上（避難空間や避難路の確保）
- ・防災施設の適正な管理と更新
- ・河川・ため池や水路・調整池などの雨水施設の整備・更新

⑦自然環境・景観～潤いのある自然と共生したまちの創造～

住民意識の中で農地や樹林地などの身近な緑が減っていると実感されている。

また、本町に対する良い印象として、「自然が多く残されており、環境が良い」とする住民が多く、今後めざすべきまちのイメージとして「自然を大切にし、自然の魅力が感じられる環境にやさしいまち」を多くの住民が選択している。

また、ふれあいの場としての樹林地や農地の保全・活用といった、水辺や緑による自然環境のネットワーク化への要望も強い。

水辺の環境としては、町内には河川や古くからの農業用ため池が点在し、水辺の自然環境を形成する貴重な要素となっている。これらは住民の生活に潤いや、やすらぎをもたらす貴重な要素でありながら、充分活用されていない。今後は住民が憩うことのできる親水空間づくりに取り組む必要がある。

こうしたことから、丘陵地や農地などの緑や河川、ため池などの水辺は、最も身近な自然環境として保全・活用を図り、潤いのある自然と共生したまちの創造をめざす必要がある。

現況

- ・良好な自然特性を示しているため池が存在（飛山池など）
- ・水田や海岸で構成される広々とした景観（東側）
- ・起伏に富んだ地形と樹林地や農地、河川、ため池で構成される景観（西側）

住民意識

- ・今後めざすべきまちの姿
自然を大切にし、自然の魅力が感じられる環境にやさしいまち
- ・環境・景観づくり
農地を残し田園風景を守る
樹林地などの緑を保全・活用
河川やため池の水辺環境の保全・整備

第5次東浦町総合計画

- ・豊かな自然環境を保全・活用した環境づくり
- ・市街化区域の緑化
- ・開発との調和を図った里山の保全
- ・二酸化炭素の排出量の削減

潤いのある自然と共生したまちの創造

- ・樹林地などの自然特性を有する区域の保全・活用
- ・河川やため池を活用した親水空間づくり
- ・市街化と自然環境の調和
- ・低炭素型のまちづくりの推進